

静岡県農林技術研究所森林・林業研究センターより

山本茂弘さん・山田晋也さん

浜松市におけるナガボナツハゼの分布・DNA解析・組織培養

ナガボナツハゼの現状

ナガボナツハゼ（写真1）は、静岡県浜松市の三方原台地から愛知県田原市の渥美半島までの限られた地域に分布し、静岡県および愛知県において絶滅危惧種のIB類とIA類にそれぞれ指定されています。近年、宅地造成等の開発により、本種の生育に適した土地が減少しています。



写真1 ナガボナツハゼ

ナガボナツハゼの保全のための取り組み

1. ナガボナツハゼの分布とDNA解析による個体管理

聞き取り等によりナガボナツハゼの分布地域を調査しました。その結果、市内の5箇所に分布し、合計98個体が生育していました（図）。さらに、DNA解析を行い、全てのナガボナツハゼについて遺伝子型を決定しました。このことにより、盗掘後に流通した個体の由来を特定することや、外来種や近縁種の植栽等による遺伝子汚染などの調査が可能になりました。

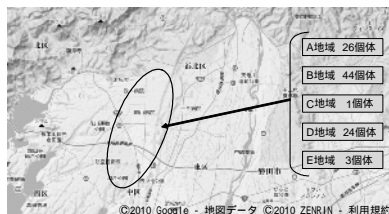


図 ナガボナツハゼの分布と個体数

2. 組織培養技術等による苗木の増殖

わき芽を容器内で無菌的に培養し、伸長や発根に適した条件を検討しました。その結果、多くのシュートが伸長し（写真2）、さらにそのシュートから発根させて植物体を再生させることができました。また、秋に



写真2 組織培養によるシュートの伸長



写真3 ナガボナツハゼの発生

果実から種を取り出し、春に育苗土に蒔き付けました。発芽は10月以降、芽が伸びだすのは翌年の春からとなることが分かりました（写真3）。このほか、ナガボナツハゼの枝をブルーベリーに3月頃を適期として接ぎ木できることも分かりました。種まきや接ぎ木はだれでもできる増殖方法です。